

## <東京都練馬区の実践>

### 【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

#### ○地域との合意形成に向けた取組を行った例

## 1. 市町村の概要

◆人口：726,809人（平成29年5月現在）

◆小学校：65校，児童数：32,513人

◆中学校：34校，生徒数：13,424人

※学校数，児童生徒数は平成29年5月1日現在

### ◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

平成29年3月に学校施設の総合的なマネジメントの方針として策定した「練馬区学校施設管理基本計画」において，区立小中学校の適正配置の考え方を示した。

なお，これまで小学校8校を4校に統合・再編し，平成30年度末に中学校1校の閉校を予定している。

## 2. 研究タイトルと研究課題

### ◆研究タイトル

・地域とともに進める学校統合と魅力ある学校づくり

### ◆研究課題

- ・芸術のまちづくりの拠点を担う小中一貫教育校の開校に向けて
- ・芸術的な教育活動と学力向上を図る9年間の教育プログラムの作成

## 3. 調査研究対象校の状況

### ◆調査研究対象校

- ・練馬区立旭丘小学校（通常の学級6学級，特別支援学級2学級，157名）
- ・練馬区立小竹小学校（通常の学級12学級，281名）
- ・練馬区立旭丘中学校（通常の学級6学級，特別支援学級2学級，185名）

### ◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

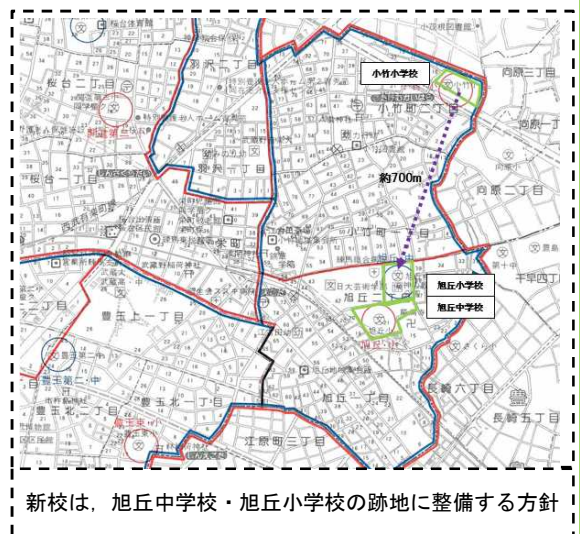
調査研究を開始した平成27年度当時，調査研究対象校はいずれも区立学校の適正規模（12～18学級）を下回り，最も古い校舎は築50年を経過していた。そこで，学校規模の適正化と学校施設の老朽化などの複合的な教育課題を総合的に解決するため，これら3校を廃し，新たな小中一貫教育校へ再編することとした。

### ◆統合に至るまでの過程

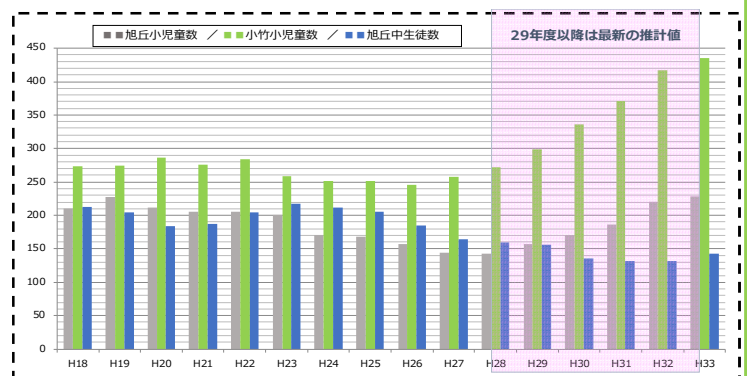
平成26年度に対象校の校長や保護者，地域の代表者などで構成する「教育環境を考える会」を旭丘，小竹地域それぞれに設置した。会は3か年で延べ11回開催し，教育上の課題を共有するとともに，今後の方策について，保護者や学校関係者と意見交換を行った。

その後，平成28年8月に対象校3校を小中一貫教育校へ再編する対応方針案を定めるとともに，保護者及び地域住民への説明会を開催した。現在は，対応方針案に対する意見を聴取し，成案化に向けて取り組んでいるところである。

### ◆調査研究対象校の位置



### ◆対象校の児童生徒数の推移位置



## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### ◆新たな小中一貫教育校設置に関する地域説明会

平成28年8月に3校を小中一貫教育校へ再編する対応方針案を定めて以降、平成28年10月・12月、平成29年12月に延べ5回の説明会を開催し、延べ594名の地域住民の参加があった。

説明会では、以下の内容について説明を行った。

- ・3校の現在の状況と将来の見通し、新たな小中一貫教育校を設置する対応方針案について
- ・対応方針案策定までの検討経緯、練馬区が取り組む小中一貫教育について
- ・施設一体型の小中一貫教育校について

なお、説明会で寄せられた意見やその意見に対する区の考え方を配布資料とともに区のホームページに掲載し、説明会に参加できなかった地域住民に対しても共有できるようにした。

### ◆小中一貫教育の推進

平成27年度から、本事業を推進するために、各校に小中一貫教育の推進役となる連携クリエイターを配置した。さらに、旭丘・小竹地域にある日本大学芸術学部、武蔵野音楽大学、武蔵大学と連携を図り、各大学の学生が小・中学校の芸術的な教育活動をサポートするなど、近隣に大学があるという地域特性を活かした教育活動を展開した。このほか、本事業に係る外部有識者から指導・助言を受け、国際バカロレア教育の考え方について研究し、魅力ある学校づくりの方策を検討するための参考とした。

### ◆小中一貫教育に関する保護者・地域住民への周知・啓発

平成28年度以降は、小中一貫教育校の設置に向けた検討を進めるとともに、保護者や地域住民に対して調査研究対象校3校が取り組む小中一貫教育に係る周知・啓発を行った。具体的には、中学校教員が小学校で行う外国語活動の授業の公開、小中一貫教育の取組を紹介したリーフレットを地域全体へ配布、ねりま小中一貫教育フォーラムの開催等の取組を行った。

## 5. 研究の成果と今後の取組

過小規模の解消と学校施設の老朽化への対応の複合的な課題の解決に向けて、説明会や協議を重ねることで、地域住民の対応方針案に対する理解を深めることができた。併せて、新たな小中一貫教育における学校運営の基本的な考え方や魅力ある学校づくりの方策について研究を進めた。

今後も、保護者や地域住民の意見を聴きながら対応方針案への一層の理解を求めていく。また、本事業で研究した小中一貫教育の学校運営の基本的な考え方や魅力ある学校づくりの方策を踏まえて、学習指導要領改訂を見据えた特色ある教育活動を検討していく。

## 6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

本区では、地域とともに魅力ある学校づくりに取り組んでいくためには、保護者や地域住民の理解が重要であると捉えており、引き続きより多くの保護者や地域の意見を聴きながら進めていくこととしている。